



その いずみの園だより 第47号

編集・発行/社会福祉法人 九州キリスト教社会福祉事業団
介護保険総合ケアセンター いずみの園 企画課

〒871-0162 大分県中津市永添2744 TEL 0979-23-1616(代)
http://www.izuminosono.jp E-mail:sogocare@deluxe.ocn.ne.jp



それゆえ、**信仰**と、**希望**と、**愛**、この三つは、
いつまでも残る。その中で最も大きいなる
ものは愛である。
コリントの信徒への手紙Ⅰ 13:13

基本理念

神と人ともに仕えるキリスト教の愛と奉仕の精神を基本理念とする

①アメニティ(快適主義)

快適なサービス、快適な環境、
笑顔のサービス提供を行う。

②ヒューマニティ(人間主義)

心と体の自由を尊重、一人ひとりの個性
を大切にサービス提供を行う。

③ローカリティ(地域主義)

地域と共に歩み、地域の福祉
拠点としての役割を果たす。

特別養護老人ホーム いずみの園 増改築第1期工事完了



ユニット型個室を備えた新型特養となる「ヨハネ館」



シニアレジデンスいずみの森から
いずみの園を望む



団塊の世代

介護保険総合ケアセンター
いずみの園

総合施設長 富永健司



「2015年問題」という言葉が話題になっている。
平均寿命が男性78歳・女性85歳と、日本は世界有数の長
寿国だが「2015年」には更に戦後生まれの団塊の世
代が高齢期に到達する。その後、2025年に高齢者は
3500万人となり、後期高齢者(75歳以上)は倍増し
て2000万人となる。高齢化社会という言葉が使われ
るようになって久しいが、その時、団塊の世代によって
日本の超高齢社会は顕在化する。

ベビーブーマーと言われた団塊の世代は、戦後の日本
の経済、貿易、技術そして流行の中心を担い、大量生産・
大量消費のマスプロ社会をリードしてきた。小中学校は
急造のプレハブ教室、高校、大学は受験地獄を体験した。
全共闘世代も団塊族、グループサウンズも彼らのもの
だった。これが会社に入ったら典型的な会社人間。高品
質製品を職人気質でつくり、メイドインジャパンは世界
を制覇した。エコノミックアニマルと批判されたり、窓
際族も経験したりしたが、誇りと自尊心だけは人後に落
ちない。退職金、年金を上手に遣いながら、ちよつとお
洒落な老後のQOL(クオリティオブライフ)を楽し
む人たちがいた。

いずみの園は基本方針を「アメニティ(快適サービス)」「
ヒューマニティ(人間性尊重)」「ローカリティ(地域
重視)」としている。他に先駆けて、介護サービスに
ISO(国際標準化機構認証)を導入し、ワンランク上
のサービスを実現した。今般、利用者の個性を尊重し
た特別養護老人ホームの個室化(40室)を行い、昨年は
欧米並みの戸建型有料老人ホームも完成した。本格的な
型の団塊の世代に、いずみの園のフルサービスを、自信
を持っておくりたい。



事業内容

介護老人福祉施設(特養)
ショートステイサービス
デイサービスセンター
グループホームベテルハウス

かきざサポートセンター
障害者デイサービス事業
生きがいデイサービス事業
児童クラブ事業

介護保険サービスセンター
在宅介護支援センター
障害者生活支援センターエマオ
配食サービスセンター

訪問看護ステーション
クリニック
リハビリセンター
介護実習・普及センター

ホームヘルパーステーション
シルバーハウジング事業
ケアマンション聖愛ホーム
シニアレジデンスいずみの森

I. 2007年度基本方針 (Quality. Management. Mission の推進) より

地殻変動ともいわれる環境変化の中で、社会福祉法人の変革と柔軟な経営姿勢が求められる時代となった。

いずみの園ではこれまでもサービスの質の向上、経営の多角化、人材の育成を図ってきたが、今後もこの方針に間違いは無く、昨年に引き続き基本方針を「Quality (クオリティ). Management (マネジメント). Mission (ミッション)」として、その推進に全力を投入する。

いずみの園 総合施設長 富永 健司

Quality(高品質)への取り組み

フランク上のサービス、高品質商品、サービス改善、ISO認証、オリジナリティ、CI、ヒューマニティ

Management(経営・管理)への取り組み

コンプライアンス、マーケティング、経営力、商品開発、顧客第一主義(顧客の立場にたった視点で、最も良いもの・癒し・優しさ・愛を捧げる)

Mission(使命)

キリスト理念(神と人とに仕えるキリスト教の愛と奉仕の精神)、フロントランナーの誇りと責任、地域福祉と人間愛の高い志を持つ

II. 重点実施項目 (主なものを抜粋)

事業部・課・事業所名	重点実施項目		
総務部	総務課	設備・車両の安全提供	
	栄養課	利用者のニーズにあった食事の提供	
	企画課	利用者満足度の測定及び分析	
	いずみの森	職員の資質向上とサービスの向上	
	研修課	研修の多角化と各部署タイアップ研修促進	
特養事業部	相談課	インフォームドコンセントの徹底、稼働率100%	
	介護課	週3回の入浴の実施、重度者の離床率アップ	
	看護課	経管より経口摂取への取り組み、ターミナルケアの実施と充実	
	リハビリ課	リハビリテーション実施計画書作成	
	ふれんど館	要介護度改善への取り組み	
在宅サービス事業部	ふれあい館	通所介護計画作成・評価	
	かきざサポートセンター	要介護度改善、安全なサービスの提供	
	・生きがいデイサービス北堀川	介護給付への移行者ゼロ	
	・児童クラブピーター	豊かな人間性の育成を目指して	
	グループホーム	ケアプランの評価と見直し、地域・家族との交流	
	介護保険サービスセンター	ケアマネジメントの質の確保・向上、個々のマネジメント能力を高める	
	障害者生活支援センターエマオ	相談業務の内容充実、機能向上、各関係機関との連携強化	
	訪問看護課	サービスの質の向上	
	訪問介護課	サービスの改善と質の向上	
	・シルバーハウジング	地域住民とのコミュニケーション作り、関係機関との連携	
	医療事業部	クリニックいずみ	医療事故の予防
		リハビリセンターいずみ	活動評価にてアクティビティの情報共有
ケアハウス事業部	ケアハウス課	地域の方々による行事の開催、健康教室の開催	

介護保険総合ケアセンターいずみの園 組織図
(2007年4月1日現在)



第一期工事完了報告

いずみの園より46号でもご報告しましたが、特別養護老人ホームいずみの園では2006年10月から増改築工事を行っています。

この度、当初の予定通り2007年3月末に、無事第一期工事を完了することが出来ました。これにより完全個室型の居室や、キッチンを備えたホール、交流のためのリビングや共用スペースなどが、新たに誕生しました。

早速4月初めに、全部署職員の協力体制の下、お引越しを敢行しました。ご入居者やご家族からの評判も良く、職員一同嬉しく思っています。

あるお部屋にお伺いしてみると、思い出の滲む素敵な家具、優しい色合いの絨織、ご家族の笑顔が並ぶ写真立て等をご家族が持って来て下さっており、「この方らしいお部屋になっているなあ」と感じました。本館へも連絡通路から木の良い香りが漂ってきています。引き続き第二期工事に取り掛かりましたが、既存部分の改築改修が中心となります。ポランテアさんのための部屋や理美容コーナー、歯科診療のためのスペース、売店なども備えられる計画です。完了は2007年6月末の予定となっております。



各ユニットにある玄関



共用スペースのくつろぎコーナー



居室内のようす



居室の扉は引き戸仕様

2007年度 いずみの園新任職員紹介(新卒者)

いずみの園ではこの4月に11名の新卒新任職員を迎えた。希望者に対して3月初旬から現場での実務研修を受入れ、3月25～30日の6日間はプログラムに則って新任職員研修を行った。研修のねらいは ①社会人、組織人としての自覚を持つと同時に、社会福祉従事者として仕事に取り組む基本姿勢を確立する ②職場生活の基本動作、仕事に必要な基本的知識、技術、技能を習得する ③研修を通じて職場の理解を深め、職場構成員としての連帯感を深める の3点が主なものである。これから共にいずみの園の理念を実現していく仲間を紹介します。

NEW FACE!
よろしくお願
いします!



河野 十萌
北九州保育福祉専門学校卒



宮崎 千恵
熊本学園大学卒



馬渡 智子
九州保健福祉大学卒



高西 保行
第一福祉大学卒



粉 利治
大分介護福祉士専門学校卒



清水佐知子
西九州大学卒



原田あずさ
西南女学院大学卒



嶋田真未子
西南女学院大学卒



岩永 朋子
西南女学院大学卒



橋本 晃一
佐賀短期大学卒



恩塚 智光
九州保健福祉大学卒

こそ!!

- デイサービスセンターふれんど館
- デイサービスセンターふれあい館
- リハビリセンターいずみ

■かきせサポートセンター

- デイサービスセンターかきせ
- 障がい者デイサービス(障害者自立支援法 生活介護)
- 生きがいデイサービス北堀川

デイサービスセンターふれんど館

営業日/毎日(年末年始除く)
時間/午前8時30分〜午後5時30分
定員35名

デイサービスセンターふれあい館

営業日/毎日(年末年始除く)
時間/午前8時30分〜午後5時30分
定員20名

リハビリセンターいずみ

営業日/月〜金曜日(祭日除く)
時間/午前8時30分〜午後5時30分
定員20名

ふれんど館は大分県で第1号の歴史を持つデイサービスセンターです。介護保険制度に従い、ご利用者の目的に合ったリハビリ、口腔機能向上、栄養指導やレクリエーション、アクティビティーなどに取り組んでいます。特に、理学療法士、マッサージ師を配置し、機能向上訓練を積極的に行っています。又、脳の活性化を目的に、手工芸、書写、脳トレーニングなどをメニューに取り入れ、楽しく活動しています。四季折々に、季節を感じていただけるような行事も行っています。



お花見



いずみの園内のふれあい農園にて玉ねぎ収穫

●ふれんど館 課長 堂本 高雄
☎0979・22・5858

ふれあい館は、認知症の専門的なケアを特徴とするデイサービスです。平屋の戸建住宅を改築した一風変わった建物ですが、玄関をくぐると温もりのある木目調の内装や木の香りが漂う、ゆっくりとくつろげる、癒しの空間となっております。

認知症(痴呆症)のある方でも「その人らしく、ゆっくりとした時間を過ごして頂けるよう」配慮し、ご利用者は自分のペースで思い思いに過ごされています。

また、土・日も休まず営業し、夕食付きの延長利用も行っています。出来るだけご利用者やご家族の意向に沿ったサービス提供に努め、皆様からご好評を頂いています。住宅地と隣接していますので、近所の子ども達が気軽に遊びに寄ったり、ボランティアの方々との交流も盛んで賑やかです。平成19年3月から、デイサービス体験利用も開始しました。準備して頂くものは、食費代600円のみです。ご希望により自宅まで送迎も致します。「百聞は一見にしかず」ご家族のケアでお悩みがある方は一度見学、相談にご来館下さい。職員一同心よりお待ちしております。



みんなでギョーザ作りに挑戦

●ふれあい館 主任 友清 賢
☎0979・23・5686

- 【1日の流れ】
- ①健康チェック
 - ②リハビリテーション(機能訓練)
 - ③昼食
 - ④入浴
 - ⑤創作活動、レクリエーション



「リハビリセンターから見た冬の八面山」
(タテ 92 cm × ヨコ 124 cm)
この作品は、作業療法として取り組んだ「タイルモザイク」です。ご利用者と職員が作業を行い、2年4ヶ月かけて完成しました。

リハビリセンターいずみは、クリニックいずみに併設された、通所リハビリテーション施設です。介護保険法に従い、要介護・要支援者にリハビリテーションを実施します。可能な限り自宅で自立した日常生活を送れるように、心身機能の回復と維持を図ることに重点を置き、医師の管理下でこれらを行います。

当リハビリセンターでは、医師の指示、指導のもと、理学療法士、作業療法士、看護師、介護員がそれぞれの専門の立場から、ご利用者の体や心の動きの維持回復を図り、自立した生活を送れるように支援しています。

●リハビリセンターいずみ 主任 栗原 洋一
☎0979・26・0780

サービス提供地域

いずみの園 通所サービスへよう



かきぜサポートセンターは北部校区の蛸瀬に位置し、住宅地の中にある事で、近隣の方が気軽に相談や遊びに来られる、地域に密着したサポートセンターを目指しています。

以前はグレース保育園であった建物を改築し、小規模で多機能性を持った施設として整備しています。園児が走り回っていた園庭も、今は高齢者が歩行訓練を兼ね散歩を楽しまれています。

日々の活動としては、機能訓練やアクティビティー（陶芸、ビーズ手芸、編み物などの手工芸）があり、他にも季節行事として、花見ドライブや地域の祭り「楽市楽座秋祭り」へ参加しています。外出行事やマッサージなどに取り組む中で、楽しみながら機能の維持、向上に取り組んでいます。かきぜサポートセンターの特徴として、通常のデイサービスのほかに障害者自立支援法で行われている生活介護（障がい者デイサービス）も実施



かきぜサポートセンター
 営業日／月～土曜日
 時間／午前8時30分～午後7時30分

●デイサービスセンターかきぜ
 定員20名
 ●障がい者デイサービス
 (障害者自立支援法生活介護) 定員5名

しています。また、専任のPT（理学療法士）によるリハビリや機能向上訓練を行っています。4月からは中津市の委託を受け、放課後児童クラブも始まりました。子ども達とのふれあいも楽しみになっています。

●かきぜサポートセンター 主任 豊田 毅士
 ☎0979・26・0039

生きがいデイサービス北堀川

営業日／火・木曜日
 時間／午前10時30分～午後3時

定員15名

2006年5月9日に開所してから、早10ヶ月がたちました。当初4名で週1回からのスタートでしたが今では20名に増え、現在週2回（火、木）実施しています。空き家だった民家を利用していため、ゆったりとくつろげる環境が整っています。



家族的な雰囲気の中、午前中は歌や体操、午後は陶芸、季節行事、ドライブ、レクリエーションなどを楽しんでいます。閉じこもりがちだった方も明るい笑顔をされ、他のご利用者と一緒に話が弾んでいます。私たち職員もご利用者から教えられることも多く、人との関わり大切さを感じさせられます。

ご利用者の声

- 陶芸がとても楽しみで自分で作ったゆのみでお茶を飲むとおいしい。
- 季節のドライブが楽しみ、近所の人から「若くなった」とよく言われる。
- 何より、ほかの利用者の皆さんと会ってお話ができるのが楽しみで、生きがいとなっています。デイに来る日は前日から楽しみで朝から準備に心がはさんでいます。帰りがとてもさびしい。
- 琴好きの方々による大正琴の演奏に合わせて歌うのがとても楽しみです。
- 皆様、気をつかうこともなく、和気あいあいであるのが楽しみです。
- 近所におしゃべりする相手もないのでデイに来ると楽しい。



思っていただけのような生きがいデイサービスをめざしています。(対象サービス提供地域 中津市)

●生きがいデイサービス北堀川 担当 長門 真理
 ☎0979・26・0039

佐馬・見学受付中・お気遣いご村詰下さい

中津市・吉富町・上毛町



いずみの園児童クラブ ピーター



～新年度より **かきせサポートセンター** 内に開設～

「児童クラブ」は、平日の放課後や土曜日・長期休暇等に、労働等により保護者が自宅にいない小学1～3年生の児童を対象として、授業終了後安全かつ健全な育成を図ることを目的に運営されます。

いずみの園では、4月より市の委託を受け、中津市が実施する放課後児童健全育成事業に基づき、「いずみの園児童クラブピーター」として、放課後児童の育成を行うことになりました。現代の子ども達は、少子高齢化・核家族化の中にあつて、人との結びつきが薄くなってきています。その様な環境の中、高齢者・障がい者・子ども達・職員も一緒に自然なカタチで、互いにお世話をしたりお世話されたりし合える関係づくりをし、障がいの有無も年齢差も関係なく、楽しく生き生きとした時間が過ごせるように努めていきます。また、子ども達が生まれ育っていく場所にとけ込み、地域の方々とささえあいながら交流し、共に育ちあいたいと思います。



- 対象児 小学校低学年（1年生～3年生）の放課後児童
- 定員 30名
- 開所日 日曜日、年末年始（12月30日～1月2日）を除く日、その他必要な場合
- 開所時間 *平日：放課後から17時30分まで。（ただし、保護者の勤務の都合などによってはご相談の上18時30分までお預かりすることもできます。）
*土曜日、祭日、春・夏・冬休み：午前8時30分から17時30分まで。（ただし、保護者の勤務の都合などによってはご相談の上18時30分までお預かりすることもできます。）
- 費用 会費/月額 5,000円、保険料/年間 3,600円、その他/活動費用に係る実費
*給食費も含め、毎月20日、翌月27日の銀行引き落としとします。
- 給食 *土曜日・祭日・長期休暇の場合、希望者にはお昼の給食を行います。
1食当り250円です。希望する場合は、事前にご連絡ください。
- 指導内容 *遊びを通じてルールと豊かな人間性を育てる。
*お年寄りとの交流を通し、思いやりの心を育て、異世代文化にふれる。
*地域活動を通じ、自分の住む町を知る。



お問い合わせは ☎0979-26-0039 **かきせサポートセンター** まで

ボランティア交流会

第12回いずみの園ボランティア交流会を3月10日（土）に開催しました。いずみの園では多くの方々ボランティアとして支えて下さっています。

当日は、ご参加下さった皆様に完成間近の新型特養をご見学いただいた後、岩崎特養事業部長から「いずみの園のケアの流れと新型特養について」として話をさせていただきました。

また、認知症特任課長でもある尾崎グループホーム課長の「認知症ケアについて」の講演では「父が存命中にこの話を聞いておきたかった…。もっと理解してあげられたかもしれない」と涙ぐまれていた方もいらっしゃいました。皆様の日頃のお働きに感謝し、更なる交流を深めるための会を今年も開催出来たことを嬉しく思います。



介護情報専門誌
おはよう21に
掲載されました

介護専門職の総合情報誌である「おはよう21」2007年4月増刊号（発行 中央法規出版社）に、当いずみの園が取り上げられました。「おはよう21」誌は月刊ですが、春と秋にひとつのテーマを深く掘り下げる内容の増刊号が発刊されます。

今回は「法人理念をどう伝えていくか」という題で、富永健司総合施設長が寄稿し、4ページに亘って掲載されました。また、「責任の大きさを肌で感じ、利用者とかかわり、利用者から学ぶ」とのタ



イトルで巻頭カラーページに、「理念は職員と利用者をつなぐ絆 いずみの園の新人研修から考える」として、取材いただいた内容を取り上げていただきました。

私共の取り組みをご紹介いただく機会を与えられ、心から感謝申し上げます。

シニアレジデンス いずみの森 通信 vol.1

地域の皆さんと共に スイーツ教室開催中!

シニアレジデンスいずみの森では、地域コミュニティの一員として貢献するため、いくつかの提案をしています。例えば、いずみの森の管理棟であるパウロ館の交流スペースを活用し、地域の皆様とご入居者が、共に楽しんでいただける企画を開催しています。

その一つに「スイーツ教室」があります。これは、ご入居者のお一人が若い頃洋菓子作りを学んだ経験を活かし、お菓子の作り方を伝授して下さったことから始まりました。今ではほぼ月に一度のペースで、ご入居者の他、管理栄養士などを講師に招き、季節にちな

んだお菓子作りに取り組んでいます。参加はどなたでも自由ですが、材料を準備する関係上、事前の申込みをお願いしています。費用は、材料代として1回につき300円程度、教室は3時間を予定していますが、試食をかねたティータイムでのおしゃべりも、楽しみのひとつとなっています。

開催日や内容はいずみの森においてあるチラシやホームページ等でもご案内しています。どうぞお気軽にご参加下さい。



開催日や内容はいずみの森においてあるチラシやホームページ等でもご案内しています。どうぞお気軽にご参加下さい。



土に親しむ「森の農園」 ジャガイモ植えました!

いずみの森には300坪ほどの農園があります。ご入居いただいた方に、土と親しんでいただけるよう整備しているものです。

先日、ジャガイモの種芋を植えました。「ホツカイコガネ」という、実が黄色味がかつたメークイン系のジャガイモです。6月初旬には収穫予定!掘りたてのジャガイモで何を作ろうかと、ご入居者の皆さんと話が弾んでいます。



他にも時期に応じて、かぼちゃ、ピーマン、トマト、ナス、キュウリなどを植えて行く予定です。獲れたての野菜を使って、野菜料理パーティーもいろいろです。

シニアレジデンス いずみの森

所在地 大分県中津市永添上ノ原2765
交通 JR日豊本線「中津」駅より車で約15分
開設年月日 2006年2月1日
施設類型 住宅型有料老人ホーム
土地の権利形態 社会福祉法人九州キリスト教社会福祉事業団所有
居住の権利形態 利用権方式
事業主体・運営管理 社会福祉法人九州キリスト教社会福祉事業団
構造・規模 一戸建て(平屋造り)8棟(1LDK6棟、2LDK2棟)および管理棟1棟

入居時の要件 お一人でご入居の場合、60歳以上であること。ご夫婦でご入居の場合、どちらか一方が60歳以上であること。ご夫婦以外でご入居の場合、両者の関係が三親等以内の血族もしくは一親等以内の姻族であり、両者とも60歳以上であること。健康保険(医療保険)、介護保険に加入していること。
介護保険 在宅サービス利用可
住宅数 8棟
敷地面積 78.37㎡～92.13㎡(駐車場含む)
居室タイプ 1LDK6棟、2LDK2棟、全棟一戸建て

入居時にかかる費用
入居一時金 Aタイプ(2LDK) 800万円
B・Cタイプ(1LDK) 650万円

毎月かかる費用 合計1人入居100,000円～
2人入居120,000円～

(内訳)
家賃 Aタイプ(2LDK) 100,000円
B・Cタイプ(1LDK) 80,000円
管理費 1人20,000円、2人40,000円
※お食事を希望される方には、配食サービスを受けております。(朝食300円、昼食600円、夕食600円)
※その他、各住戸内の電気代、電話代、新聞購読料などは各自別途負担となります。

【お問い合わせ】
随時、見学および体験入居を受付中です。
☎0979-33-7070
電話受付/9:00～17:00(無休)
<http://www.izuminosono.jp/izuminomori/>

グループホーム ベテルハウスで、開設時から入居されていたご利用者が永眠された。笑顔の優しい方であった。大病を抱えておられ、突然の急変も予想されていたが、ご家族とスタッフとお話をさせていただき、終末の時はグループホームで迎えられ、クリニックのドクターや看護師もサポート体制をとってくれている。

三日前から変調がうかがわれ、苦しげな様子ではあったが、スタッフの介助で前日まで自室のトイレを利用するなど、それまでの生活の延長上での最期であったという。「特別にターミナル(終末)ケアを行って、といったことではなく、いつも通りただ淡々と、その人がその人らしい生活を全うできるように、傍に居させていただきました」とスタッフが話してくれた。長い時間お傍に居るスタッフにとって、家族のような思いで接しているご利用者との別離は、寂しくまた悲しいものである。

この三年間の沢山の思い出と、色々なお教えに感謝して…。

うつし世の
またのえにしは叶わねど
末には逢はむ時至りせば
淳子





いずみの園では「安全・安心」なサービスを提供するため、法人を挙げて防災へ取り組んでおります。

園内には防災委員会を組織し、医療品・食料品・水・非常用バッテリーといった防災用品の備蓄や、防災計画に則った毎月の防災訓練を行っています。また、消防機関の検査を受け『防火優良認定証（防火セイフティマーク）』も取得しています。

例年3月には、春季全国火災予防運動にあわせて消防署、地域の皆様のご協力のもと総合防災訓練を開催しております。今年も運動週間の初日である3月1日（木）を「2006年度いずみの園防災の日」とし、消防署員による各種避難救助訓練や消火実演、消防車両・救急車両・消防工作車の展示、いずみの園防災資器材の展示、防災食の試食会等を行いました。我々いずみの園も地域の一員として、地域の安全の確保・防災力の向上に努め、安心して安全な地域づくりに貢献したいと願っています。



全員避難できたか点呼で確認



最長 36.4m（12階建てビル相当）まで伸びるはしご車も実演展示

今回の訓練の出火想定場所はケアハウス4階ゲストルームに設定しました。その中で4階に取り残された被災者（職員）を、マスクを装着し酸素ボンベ等を背負った重装備の消防署員さんが救出する、という訓練を行いました。より実際に近い形で訓練を行うため、担架に人をのせて、4階分の階段を降りてくれました。見守るご入居者も、看護師のもとに無事到着する様子に「心強いね!」と笑顔でした。

●ご入居者のコメント

「火災、地震などの災害はいつ起こるか分からないので、日頃からの訓練を真剣に取り組むことが大切だと思います。」

●昔、住んでいた地域で消防団長をしていた方のコメント

「今回の総合防災訓練は聖愛ホーム出火想定であり、毎月の訓練の成果が発揮できたと思います。いずみの園は防災への取り組みがきちんとしているので安心です。」



4階からの救助もプロの技で



職員も担架で救助搬送



看護職員への連携もスムーズに